

「本明川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民からの意見を聴く場

日 時：平成25年6月17日（月） 18時30分～19時20分

場 所：高城会館 大研修室（1階）

○住民（1番）

こんばんは、富川町の●●と申します。

2点ばかり話しをさせていただきますけど、まず利水のことに関しましてですね、利水はこの間の5月31日に「利水を断念する」というような水道企業団からの発表があったところでございますが、これは平成14年からの認可で水道企業団が、法律的にこれを確立をして2市6町、その頃は2市6町だったと思うんですけども、いまは2市2町ということで、それで首長達が一緒に集まって、そういう事業をやっていこうということで、企業団を立ち上げてやってきたというところなんです。

ところが、それがいとも簡単に「じゃあ俺は水がいらんから、俺は抜けた」というふうなところが、それは首長達の話しのなかで、このように簡単に取り消しができるのかというところで、非常にこうそのへんが私にはわからないというところがあります。

そういうふうな首長の意見というのは軽いのかというふうに思っているところであります。まあこれからいろいろとその後始末が、補助金の問題だとか、ペナルティーの話したとかがそういうのがでてくるとは思うんですけども、それはまた当事者が考えることであって、我々が考えるということではないかもしれませんが、とてもそのへんを心配しているところです。

第二にその治水のことに関しましてですね、これは昭和58年から30年以上たった今日まで、その予備調査からすれば、そういう悩まされている地域があるわけですね。それに対しては、非常にこう子供たちがこれからやっていこうというときに、そういう農業では食っていけんと、あるいはまた、そういうものに携わってもこの地においては、「君たちは生活ができないぞ」ということで、外にまあ都会に出した。それに関係ない人も出て行ったかもしれませんが、そういう生活設計を狂わされた人たちもおるというところです。

それで治水というならば、なんでもっと早くそれに手を付けなかったのか、これを無駄というのであれば、じゃあ人の生命・財産がどうなってもいいのか、自分たちは高い所、高台におるからその影響は、洪水の影響を受けないというところで、自分たちには関係ないからそういうのは無駄だと、もしおっしゃるのであれば、それは非常に失礼な話といたしますか悲しい話しではないかというふうに思います。

是非とも流域住民に対しても悲願である洪水を調節して、皆さんの生命・財産を守るということに対しては、首長が一生懸命に取り組むべきだというふうに思っております。

以上でございます。